

公開実用 昭和63- 8969

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63- 8969

⑬ Int.CI.

B 41 K 1/10

識別記号

厅内整理番号

6863-2C

⑭ 公開 昭和63年(1988)1月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 日付印

⑯ 実 願 昭61- 103828

⑰ 出 願 昭61(1986)7月7日

⑱ 考案者 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畠区一枝2-5, 10-308

⑲ 出願人 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畠区一枝2-5, 10-308

明細書

1. 考案の名称 日付印
2. 實用新案登録請求の範囲

ケース本体1の開口上面の外周に摺動枠2を上下動自在に挿嵌軸支し、ケース本体1の内部に上下に若干移動可能に門型枠3を組付け。該門型枠3の先端部間に架設した受台4と中央部に架設されたダイヤル軸5に遮蔽した複数の日付変更ドーム6とa間に複数本の無端印字ベルト7を張出し2±3日付印において、摺動枠2上面に軟質弹性材8を介して固定印字体9を取り付け。且つ受台4は複数個の切欠部10を互い違ひの方向にその開口部を形成するように設計することを特徴とする日付印。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

二の考案は、「受付日」や「氏名」などの文字を押印する固定印字体と該当の「年月日」を押印する無端印字ベルトを備えた日付印の改良に関するもの。

(従来の技術)

従来、二の種の日付印は、日付印の方向が紙面に對し垂直にならず若干左右前後に傾いたり押印しきしまった場合等、印字面と紙面が所要通りに合わせかからず時、押印の一部が欠けてしまふという不具合があり、押印時に注意集中を要した。二のため同様の理由により他種の印には、固定印字体をスポンジ等の軟質弹性材を介して貼付たり、実公昭30-13407号公報に示されたように無端印字ベルトを支承する受台部にスポンジ体を内蔵し上下動自在とならしめる案が知られてい。

3.

(考案が解決しようとする問題点)

二の種の日付印に従来の技術を応用した場合、スポンジ体の特性上、無端印字ベルトが常に正確な位置復元を行なえず構造が複雑で大型となり、又耐久性に欠ける傾向があった。

本考案は前記の欠点を解決し、構造が簡単製作が簡単で耐久性があり、押印時に紙面に對し若干左右前後に傾いても所要通りに固定印字面となる。

可変印字面を自動的に紙面に嵌めせる二七が可能
な日付印を提供する二七を目的とする。

(問題点を解決するための手段)

以上の二七は問題点を解決するためには、二の考
案は次の二七構成としている。

先づ、固定印字面12を紙面に嵌めせるために、
図示する如く、一又本体1の開口上面の外周に
摺動軸2を上下動自在に挿嵌軸支し、該摺動軸2
上面に固定印字軸11を接着し、又其内側に軟質彈
性材8を介して固定印字体9を取り付ける。

一方、可変印字面13を紙面に嵌めせるために、
一又本体1の内部に上下に若干移動可能な門型
軸3を組付け、該門型軸3の先端部間に受台4を
架設し、中央部にダイヤル軸5を架設し、該ダイ
ヤル軸5に複数の日付変更ドライバ6を連結し、二
の間に複数本の無端印字ベルト7を張架し、受台
4の所要位置に次2圖に例示する如く複数個の切
欠部10を持たる開口部が互い違ひの方向に左3
右3に形成する。

摺動軸2、固定印字軸11、軟質弹性材8および

固定印字体9の各々中央部には透孔10を形成し、無端印字ベルト7の上部にあたる可変印字面13が突出可能である。

軟質弹性材はその両面に接着剤を塗布したスキンシート等を用ひても他の軟質弹性体を使用してもよい。

又、後台4は切欠部10を除く達の方向にその開口部が位置するように2個以上設ける必要があるが、合成樹脂等を使用して射出成型等の方法により簡単に製作することは出来る。

尚、二二四は引き続き上、固定印字体枠11を用いる旨に説明したが、該固定印字体枠11を省略し、軟質弹性材8を直に摺動枠2上に装着しても機能としては何ら変化ない。

(作用)

次に二の考案の作用を説明する。

固定印字体9は軟質弹性材8を介して摺動枠2に取り付けられるため、押印時に固定印字体9自体の弹性と相俟ち軟質弹性材8が柔軟に変形し、固定印字面13は上下傾動自在となる。

又、可変印字面13は、無端印字ベルト7が複数個の切欠部10を形成した後台4に支承されるため押印時に可変印字面13および無端印字ベルト7を介して後台4に外力が加わるとその外力の強さによつて方向に応じ柔軟に上下傾動する。

これは後台4に切欠部10を形成する=ヒンギア後台4に弾簧性を付与する=ヒガ可能になつたのであり、特に切欠部10を図示する3図C左の図の方向にXの開口部が位置するように形成する。

次3図は図示する3図C押印面が左側に傾む時は次3図の左図の如く、押印面が右側に傾む時は次3図の右図の如く、又、傾きの生じる時は次3図の中央図の如く変形させるとが出来る。

この場合、後台4は切欠部10の形成位置、巾、形状、寸数等を適当に選定する=ヒンギア、無端印字ベルト7には適當な張りを付与しながら支承し、又、外力に対するXの方向大きさに応じて柔軟に追従変形させるとが可能になる。

以上の如く構成する=ヒンギア、固定印字体9および無端印字ベルト7が各自独立に上下傾動自

在となり。押印時に固定印字面12および可変印字面13を紙面に自動的に作成せることが可能になる。

(実施例)

二の考案の実施例を図面を参照しながら説明する。

第1実施例

第1図は二の考案の第1実施例を示す部分断面図、第2図は同じ第1実施例を示す分解斜視図である。

第1実施例では摺動枠2の上部に固定印字枠11を側面接着し、その内側に軟質弹性材8を貼着し、さらにその上部に固定印字体9を各々の開口部すれあわせ透孔17がもう1つよりに接着してある。

二の際固定印字枠11に設計した突起部14を摺動枠2に設計した挿入穴15に挿入する等により容易に位置決めが可能となり、さらに固定印字枠11は美観を向上するようにも働く。

しかし、これを省略し軟質弹性材8を直に摺動枠2上に接着しても機能を失へは何ら変わらないことは前述した通りである。

さらに受台4を門型枠3の先端部間に係止架設し、無端印字ベルト7を該受台4と門型枠3の中央部にある日付変更ドーム6間に張架し、ダイヤル軸5～ダイヤル軸穴16と日付変更ドーム6とを連架して遊轍する。受台4は形成された切欠部10と受台4と前述の如く变形自在である。

次2実施例

次4図は二の考案の次2実施例を示す斜視図である。次2実施例では門型枠3の西側に設計されたダイヤル軸穴16の下部に図示の如く切欠部10を形成している。他の構成は次1実施例と同じである。二の次2実施例の大ねかは次1実施例と比較して受台4本体と門型枠3の各切欠部10の弾発作用が相俟つ。さらに柔軟性が増し受台4の上下動ストロークが増大するようになる。

尚、次2実施例において、受台4に切欠部10を設計する門型枠3の先端部に緩衝ヒンジを門型枠3の切欠部10の弾発作用により受台4に支承される可変印字面13を上下動自在に動作させることができる。

(考案の効果)

本考案は、摺動枠2上面に軟質弹性材8を介して固定印字体9を取り付けることにより固定印字体面12を上下傾動自在ならしめ、一方、受台4の所要位置に亘る直いの方向上に複数の切欠部10を設けることにより受台素材に弹性を付加し、無端印字ベルト7に張りを付与して支承する同時に可変印字体面13を上下傾動自在ならしめることが出来るといふ極めて簡単な構造で製作が容易で、しかも耐久性のある日付印を提供出来ることの効果を生じる。

本考案の日付印を使用することにより、粗面である12は堅く机上に直接置かれた紙面に付しても、又、若干押印角度に狂いを生じても、極めて柔軟性の高い快適感をもつて確実に鮮明な押印を行なうことが出来、さらには固定印字体9と無端印字ベルト7が各自上下傾動自在であるため、固定印字体面12と可変印字体面13とが厳密に一致しなくてよいことによる効果を生じ、受台4の切欠部10を設け適度の反発性を持たせた無端印字ベルト7を張

架させることにより、無端印字ベルト刀が若干弛緩しても常に適切な張り具合となり、且つ自己調節作用を生ぜしめると共に、無端印字ベルト刀の回動時にあたり、ゴム印字部が変形しにくいために抵抗せずあるが、その時受台4が適度に変形するためには軽快に回動するという効果も生じる。

本考案は、以上の効果が、受台4に複数の切欠部10を特に左・右の方向にXの開口部を形成するよう設計することにより可能にしたといふ。実験によると意外の効果を見出し目的の達成などを知った实用効果の大なるものがあり産業に寄与する。

4. 図面の簡単な説明

ガ1図は本考案の日付印のガ1実施例を示す部分断面図、ガ2図は本考案のガ1実施例を示す分解斜視図、ガ3図は本考案の受台の動作状態を示す斜視図、ガ4図は本考案のガ2実施例を示す斜視図である。

1はケース本体、2は摺動軸、3は門型軸。

10

4は巻台、5はダイヤル軸、6は日付変更ドラム、7は無端印字ベルト、8は軟質弹性核、9は固定印字体、10は切欠部、11は固定印字枠、12は固定印字面、13は可変印字面、14は突起部、15は插入穴、16はダイヤル軸穴、17は透孔。

実用新案登録出願人 佐々木 福三

図面

図1図

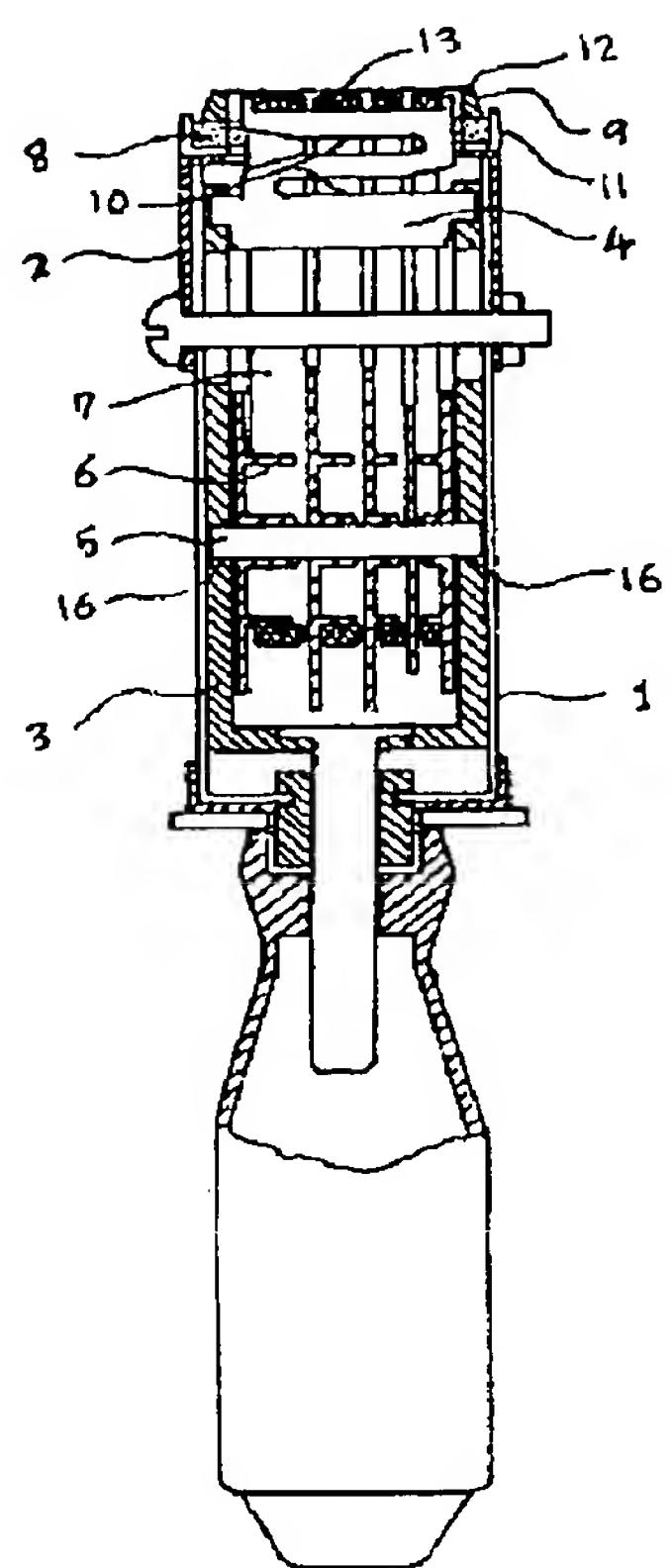
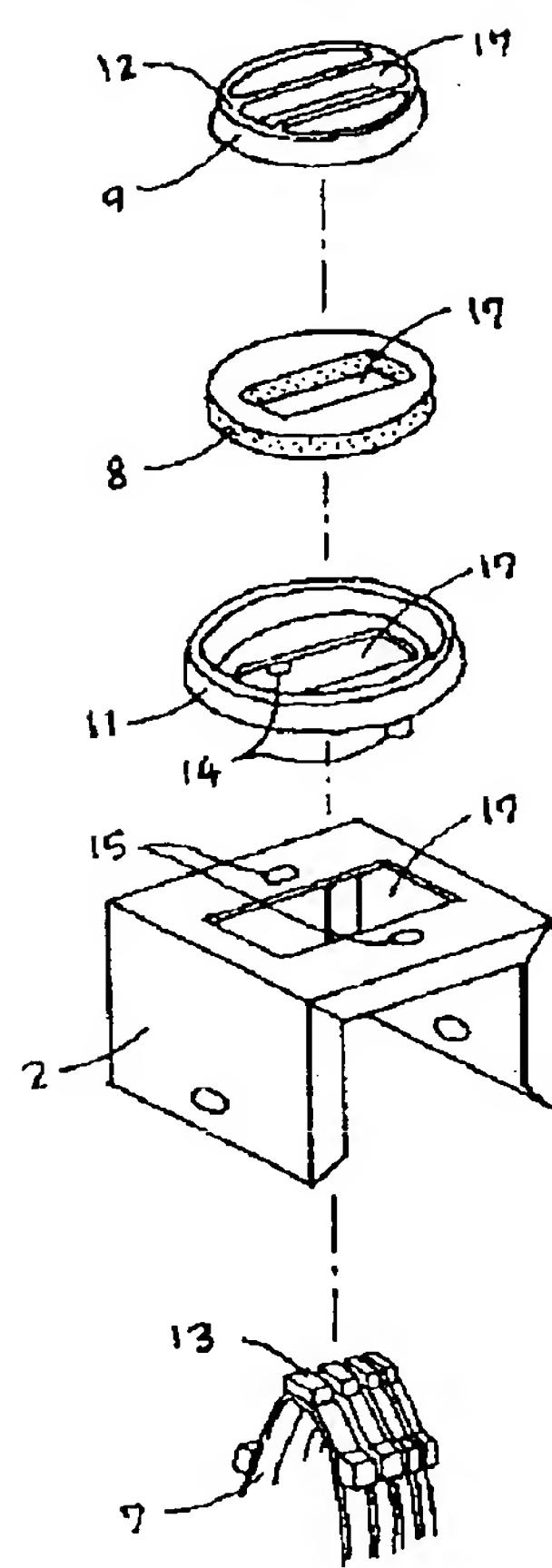


図2図



- 1: ハサ木本体
- 2: 振動軸
- 3: 門型枠
- 4: 積台
- 5: サイザル軸
- 6: 目付標準軸
- 7: 黒端印字ヘッド
- 8: 敷實弹性板
- 9: 固定印字体
- 10: 切欠部
- 11: 固定印字枠
- 12: 固定印字面
- 13: 可変印字面
- 14: 突起部
- 15: 挿入穴
- 16: サイザル軸穴
- 17: 道孔

図3図

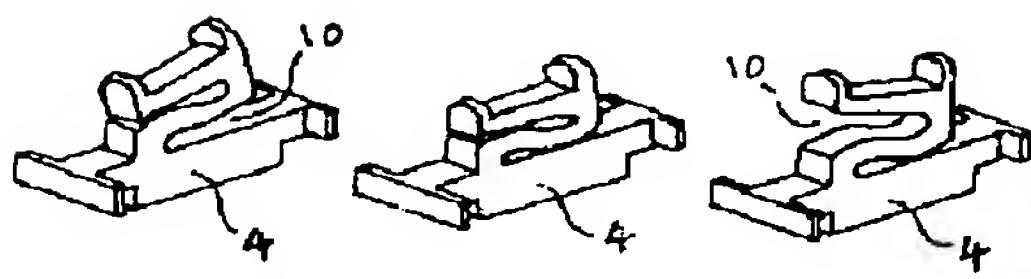
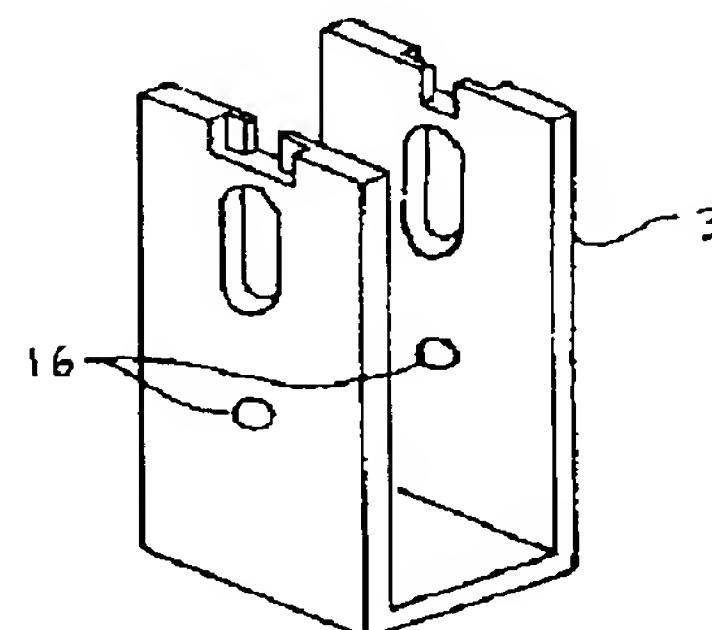
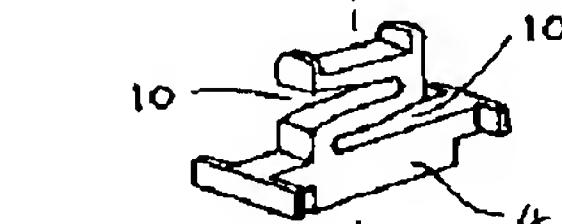
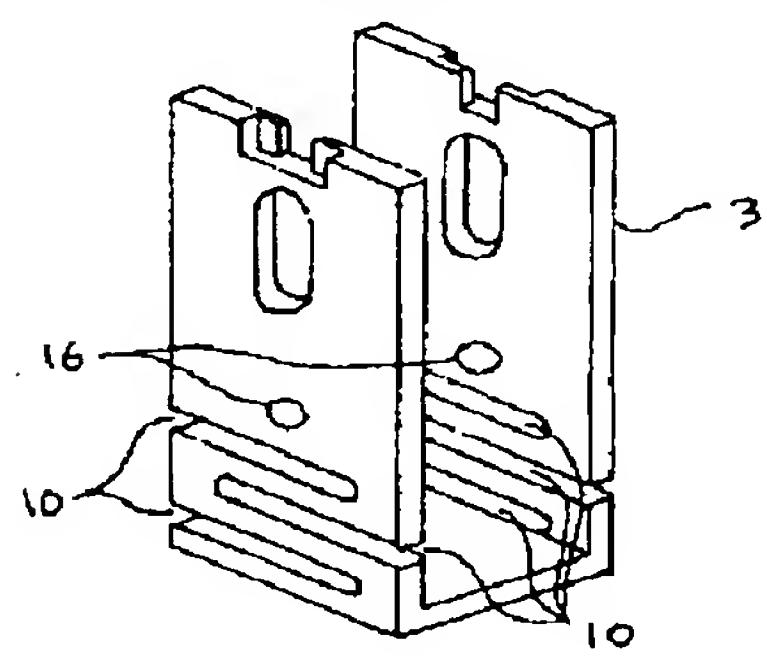


図4図



751

実用新案登録出願人

佐久木 裕三

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.